

平成24年度

「教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検・評価」実施報告書

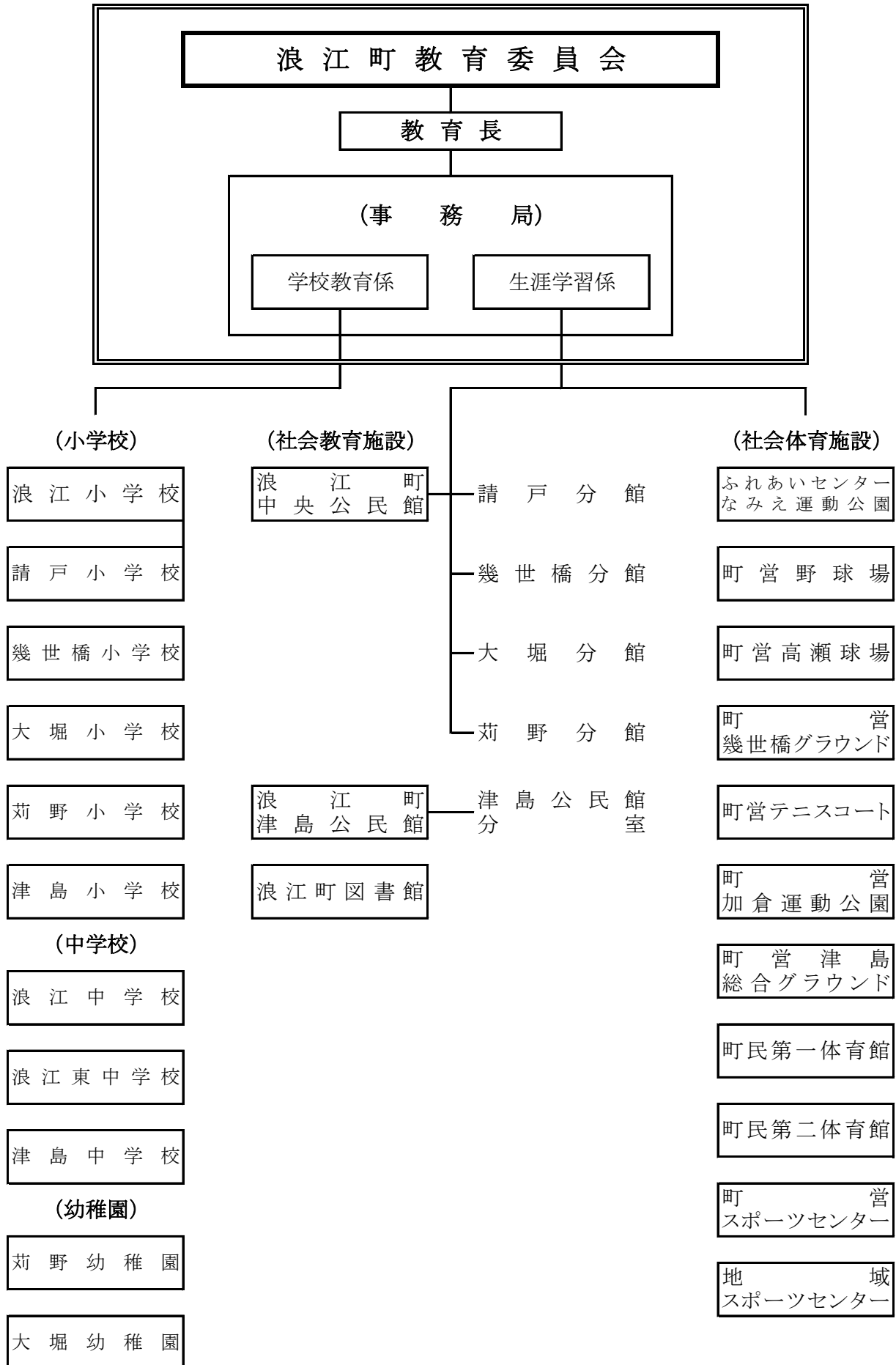
平成25年6月

浪江町教育委員会

目 次

・ 目次	1
・ 教育行政組織図	2
・ 点検・評価の構想 趣旨、点検・評価、意見の聴取、実施スケジュール、公表の方法	3～4
・ 平成24年度及び今後の教育施策展開の方針 基本方針、町の復興と教育理念、理念の具現化のための方策、 施策の重点項目五つ	4～8
・ 平成24年度取り組み状況等	8～22
《教育委員会関係》	(8～9)
《学校教育行政関係》	(9～15)
《社会教育行政関係》	(15～17)
《文化及びスポーツ振興育成事業関係》	(17～17)
《学校教育（浪江小・中学校）関係》	(17～22)
・ 平成24年度教育行政点検・評価の時系列報告書	23～30
・ 浪江町教育委員会所在地等	31

教育行政組織図



《点検・評価の構想》

1. 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年度から教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとなりました。

浪江町教育委員会においては、これまで当該年度の基本方針・重点施策及び努力事項に基づく適正な執行管理により各種の施策、事務事業に取り組み、次年度には執行状況の点検・評価の結果を公表してきたところです。しかし、平成23年3月11日の大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により全町民が避難を余儀なくされました。そのため、平成22年度及び平成23年度の報告書につきましては、従来の形式とは異なった内容で報告いたしました。

平成24年度の報告書は、初めに今後の教育施策展開の方針を記述し、その後に〔基本方針〕、〔町の復興と教育理念〕、〔理念の具現化のための方策〕、そして、方策実現のための5つ施策の重点項目を詳述しました。

また、平成24年度に取り組んだそれぞれの事業については、時系列で一覧表にまとめました。

これに対して、教育に関して学識経験を有する方々からご意見・ご指導をいただき、「平成24年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」として報告書にまとめたものです。

2. 点検・評価

教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行状況として点検及び評価する内容は、次のとおりです。

(1) 点検・評価の対象

1. 会議の開催状況

平成24年度に開催した教育委員会の開催日及び案件及び教育委員会の会議・研修等への参加状況・・・時系列報告書に網羅

2. 施策の執行状況

平成24年度の教育委員会施策展開の方針に基づき実施した、各種事業実施状況
・・・時系列報告書に網羅

(2) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局の業務別に行いました。

1. 「教育委員会関係」：教育委員会の取り組み状況
2. 「学校教育行政関係」：学校教育係の取り組み状況
3. 「社会教育行政関係」：生涯学習係の取り組み状況
4. 「学校経営関係」：浪江小・中学校の重点取り組み状況

以上の4項目について主な取り組み状況を列記し、「どの程度の成果があったか。」を主たる視点として、評価と、それに対する課題と今後の対応について記述しました。

3. 意見の聴取

点検・評価にあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定により、評価の客観性を確保する観点から、教育に関し学識経験を有する方々からの意見を聴取しました。

(1) 聴取の方法

教育委員会が行った点検・評価の内容に対して、学識経験を有する次の方々から客観的な意見をいただきました。

今野正悦（元社会教育関係者代表）

森藤基子（元学校教育関係者代表）

蒔田嗣夫（元PTA関係者代表）

4. 実施スケジュール

H25年3月中旬	執行状況の中間とりまとめ（報告書「素案」の作成）
々 3月26日	学識経験者への委嘱状交付
々 4月26日	報告書（素案）に対する有識者からの意見聴取
々 5月17日	報告書（案）の最終とりまとめ
々 5月24日	点検・評価結果の決定（教育委員会定例会）
々 6月12日	議会へ提出
々 7月上旬	公表

5. 公表の方法

点検・評価の結果については、町のホームページに掲載し、公表します。

《平成24年度及び今後の教育施策展開の方針》

浪江町の復興とまちづくりにおいて、その成否と教育復興とは緊密に関連するとの認識に基づき、今後の浪江町の教育については、以下の通り構想する。

平成24年度における施策展開については、以下の構想を踏まえ、状況の進展に応じながら、適切かつ有効と判断されるものについて重点的に取り組む。

[基本方針]

1. 浪江町教育振興のための計画は、浪江町復興ビジョン或いは浪江町復興計画（第一次）との整合性を図りつつ、将来展望のあるものとする。
2. 浪江町の教育復興のための計画は、浪江町の復興の道筋とその実現時期に留意しつつ、状況に即した実効性のあるものとする。

[町の復興と教育理念]

1. 復興への思いや願いを形にする教育（町民の思いや願いが形作る力強い教育復興）

2. 復興を共にし、復興を促進する教育（町の復興に深く関わり、復興の力になる教育）
3. 地域と共に歩む教育（地域に支えられ、地域の力を生み出す教育）
4. 被災を乗り越える復興と教育（被災経験から多くを学び生かす復興と教育）

[理念の具現化のための方策]

1. 復興への思いや願いを形にする教育（町民の思いや願いが形作る力強い教育復興）
 - (1) 町民の思いや願いを受け止め実現する教育の在り方を目指す。
 - ①教育に対する町民の思いや願いに関する広報・広聴活動の展開
 - ②町民の思いや願いを踏まえた、在るべき教育の姿の構想
 - (2) 町民の思いや願いを教育復興に結びつけるための推進体制を目指す。
 - ①効果的な情報発信と、意見等の採用・反映による、町民の関心や参加意欲の喚起
 - ②PTA や地域関係者との連携に基づく、組織的な協働作業の推進
2. 復興を共にし、復興を促進する教育（町の復興に深く関わり、復興の力になる教育）
 - (1) 教育復興計画を浪江町復興計画等との整合を図りつつ策定する。
 - ①教育委員会基本方針の練り上げ
 - ②構想・計画策定段階での関係部署、関係会議等との関連重視・強化
 - ③町の復興ビジョン・復興計画を踏まえた、実効性ある教育復興計画の構想・策定
 - (2) 教育復興と浪江町復興の調和ある進捗・進展を図る。
 - ①町関係部署との緊密な連携
 - ②十分な検証・評価を踏まえた柔軟で適切な対応
3. 地域と共に歩む教育（地域に支えられ、地域の力を生み出す教育）

☆施策の重点項目を以下の五つとし、実現のための方策については、別に詳述する。

- (1) 地域と共に育つ学校教育を実現する。
 - (2) 町民の思いと地域を結ぶ社会教育・生涯学習の実現を図る。
 - (3) 町民と地域を元気にするスポーツ・文化活動を推進する。
 - (4) 暮らしと地域に根付く文化財保護活動を推進する。
 - (5) 人づくりを通して地域の復興に資する教育行政を推進する。
4. 被災を乗り越える復興と教育（被災経験から多くを学び生かす復興と教育）
 - (1) 防災と安全確保についての学習機会と態勢を充実する。
 - ①防災教育の充実（防災・減災に係る意識と理解の深化と、必要な能力も向上）
 - ②防災態勢の整備（経験を踏まえた有効な施設整備と、組織体制の充実）
 - (2) 状況に応じた判断と行動についての学びを充実する。
 - ①情報収集・活用能力の向上（情報収集・分析・判断と、理性的で適切な行動・対応）
 - ②主体的に行動する態度の育成（自覚ある状況判断と、最善を尽くそうとする姿勢）

《社会教育・生涯学習》

◇町民の思いと地域を結ぶ社会教育・生涯学習の実現を図る。

1. 出合いが楽しい社会教育・生涯学習

- ①学ぶ意欲と目的にマッチした学習内容の設定
 - ・学習ニーズの把握と対応（情報提供を含む）
 - ・指導者の充実
- ②学びの発見や活動の喜びのある学習プログラムの開発・提供
 - ・学習活動の工夫・多様化
 - ・学習者の纏まりと主体性の育成、

2. 思いと地域を結ぶ社会教育・生涯学習

- ①社会参加型学習、ボランティア活動の積極的導入
 - ・参加意欲の育成と実践活動の推進
 - ・関係組織・機関との連携協力
- ②「協働のまちづくり」の理念の普及と実践活動の実施
 - ・まちづくり担当部署との連携
 - ・実践を通じた意識向上

3. 意識を高め未来を拓く社会教育・生涯学習

- ①達成感と発展性のある学習プログラムの開発・提供
 - ・専門的知識・技能の習得
 - ・実績と指導力を有するリーダーの育成
- ②実践を通じた積極的社会参加
 - ・組織的、主体的活動の推進
 - ・専門家・専門組織による助言と支援

《スポーツ・文化活動》

◇町民と地域を元気にするスポーツ・文化活動を推進する。

1. 交わりが楽しいスポーツ・文化活動

- ①「地域型総合スポーツクラブ」の開設
 - ・住民のニーズにマッチした活動内容
 - ・参加者による自主的運営
- ②芸術文化活動発表機会の確保と交流の活発化
 - ・関係団体の実態把握と連携強化
 - ・発表・交流機会の確保・提供

2. 人と地域を元気にするスポーツ・文化活動

- ①競技・発表機会の設定とイベントを通じた地域住民との交流
 - ・地域との関連を意識した企画
 - ・関連情報の計画的提供
- ②関係団体のボランティア組織化による地域活動の活発化
 - ・関係団体の組織機能強化
 - ・ボランティア組織との連携

	一次	二次	三次
	○		
		○	
	○		
		○	
	○		
		○	
		○	
		○	
			○
		○	
			○
	一次	二次	三次
			○
			○
	○		
	○		
		○	
		○	

3. 日々を彩り健康で心豊かな暮らしに繋がるスポーツ・文化活動

①「スポーツ・文化振興まちづくり」の推進

- ・まちづくり理念への反映
- ・活動基盤の整備

《文化財保護》

◇暮らしと地域に根付く文化財保護活動を推進する

1. 関わりが楽しい文化財保護活動

- ①文化財への再認識と郷土理解のための情報の提供

2. 暮らしと地域に根付く文化財保護活動

- ①地域に伝わる芸能等の伝承活動の継続
- ②関係団体の実態把握と連携強化

3. 郷土愛と町づくりに生きて働く文化財保護活動

- ①ふるさと復興、新しいまちづくり計画への反映

《教育行政》

◇人づくりを通して地域の復興に資する教育行政を推進する。

1. 町民の思いや願いの把握と在るべき教育的環境の整備

- ①町の復興ビジョン・計画を踏まえた、教育復興計画の構想
- ②教育復興計画実現のための事務局体制整備と施策の展開

2. 被災経験を地域復興と今後の暮らしに生かす教育施策の推進

- ①防災教育の充実と防災意識の向上
- ②安全で安心な社会づくりに貢献する意識の育成

3. 歴史を貴び、地域や人々との絆を大切にする風土の形成

- ①町史編纂事務の継続

	○	
		○
一次	二次	三次
○		
○		
	○	
	○	
一次	二次	三次
○		
○		
	○	
○		

○平成24年度 取り組み状況等

《教育委員会関係》・・・時系列報告書一覧表で示しました。

浪江町教育委員会の委員は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第3条のただし書きの規定に基づき、「6名」で構成しています。任期は4年です。

主な任務は、①学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関すること。②学校その他の教育機関の用に供する財産の管理に関すること。③教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他人事に関すること、等としております。

職名	氏名	住所	就任月日
委員長	青田 忠文	大字北幾世橋	平成21年6月23日
委員長職務代理者	鈴木 大介	大字請戸	平成22年12月27日
委員	星 大子	大字小野田	平成20年10月1日
委員	四條 賢清	大字立野	平成24年11月1日
委員	今野 秀則	大字下津島	平成25年1月1日
教育長	畠山 熙一郎	大字権現堂	平成20年6月25日

【取組み評価と、それに対する課題と今後の対応】

平成24年度に開催した教育委員会は、定例会が12回、臨時会が2回でした。教育委員の会議出席率は95.6%です。各教育委員は県内外に避難生活を余儀なくされている現状の中、職務遂行に尽力をいただいたところです。

教育委員の異動では、2名の教育委員が任期満了につき新旧交代した他、教育長の再任がありました。これまで女性委員が2名おりましたが、今回の人事で1名になったことが女性の立場からどのように受け止められるか、今後の委員会活動の動向が注視されるところです。

今年度の会議の主な内容は、①管理規程の制定が1件、②補助金交付要綱の制定が1件、③規則の制定が1件、④規程の一部改正が2件、⑤規則の一部改正が1件、⑥条例の一部改正が2件、⑦平成25年度使用教科用図書の採択が1件、⑧浪江町立小・中学校の位置変更に関する議案が2件、⑨学校訪問1回。その他としては予算審議、専決処分、平成23年度「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」の報告書の決定等々でした。

被災前は小学校6校と中学校3校が開校していましたが、被災後は、全町民が町外に避難生活をするという異常な状況の中で、二本松市内の旧校舎を借用し平成23年8月25日（2学期）から小・中学校1校ずつ再開しました。再開した学校はいずれも小規模校ながら工夫を凝らした学校経営に取り組んでいます。

昨年10月30日教育委員が学校訪問を行いました。長く、苦しい避難生活にもかかわらず生き生きとした笑顔あふれる児童・生徒の動きに各委員、再開の意義を改めて感じ取ったところでありました。

一方、生涯学習事業では、全町民の68.8%が県内、31.2%が県外に避難している現状で生涯学習活動を展開するのは容易でない中であって、成人式及びスポーツ活動を展開しました。

各委員からは、町民が散り散りに避難しているからこそ絆づくりが必要との認識の下、今年度取り組んだ事業については高い評価を得たところです。

今後、学校再開はじめ生涯学習についても、浪江町復興計画（第一次）の進捗状況に合わせて取り組む必要があり、教育委員の指導・助言がなお一層重要になっております。

《有識者の主な意見》

- ・津波による家屋流出及び原発事故による避難により、補助金等を受け入れる各種団体が県内そして県外に避難している状況ではあるが、補助金等については適正に処理するよう指導していただきたい。
- ・緊急時に重要なデータ等をすぐに持ち出せるように、日頃よりサーバーの適正な管理並びにバックアップ機能の一層の充実をお願いしたい。
- ・国県からの正確で迅速な情報収集と町民へのスムーズな広報が重要である。
- ・浪江小・中学校の再開は関係者の努力があったからこそ実現した。なお引き続き、避難先自治体の学校へ就学している子どもたちの状況把握及び支援に努めていただきたい。

《学校教育行政関係》

【浪江町の小・中学校の児童・生徒の状況】

平成24年度当初、浪江町の小・中学生1,660名は、全国の241市区町村の避難先の749の学校に分かれました。そのうちで、二本松市に再開した浪江小学校と浪江中学校の在学者は80名ほど（全体の5%未満）で、ほとんどが浪江町立の小・中学校以外で学んでいます。

このような状態にある浪江町の児童・生徒が、困難な生活の中で少しでも元気を取り戻して日々の生活に取り組むことができるよう、その状況を把握しながら必要な支援を続けることに努めました。

【教職員と教育委員会事務局による支援体制づくり】

平成24年度、未だ再開できていない五つの小学校と二つの中学校の管理職以外の大半の教職員は本来の学校から離れての勤務（兼務校勤務）となりました。そのために、未再開校の管理職と兼務とならなかったごく一部の教職員とで浪江町小中学校事務局の体制を整え、これと浪江町教育委員会事務局が連携して、全国各地の避難先で学ぶ浪江町の児童・生徒を支援する様々な活動を行いました。

【再開校2校以外に在籍する児童・生徒への支援】

〈絆を保ち、強化するための活動〉

（1）各学校からの関わり

① 学校便りの発行

- ・児童生徒の活躍の様子や学校の状況等の情報を校長が中心となって収集し、児童生徒及び保護者を励ます内容の学校便りを作成して、年間を通じて各校平均8部を家庭へ郵送しました。

② 学校ごとの集会行事の開催

- ・未再開校ではそれぞれ1回から3回、児童生徒と保護者及び教職員が集まり懇親を深めました。子どもたちが交流を深めるだけでなく、保護者達にとっては避難生活の苦労を確認したり、情報を交換したりする場ともなりました。

（2）小中学校事務局からの関わり

① 児童生徒の居住地や就学先の情報を毎月整理して、浪江町の児童生徒の全体の状況を把握しました。学校は浪江町全体の動きをとらえながら、個々の家庭に対して就学相談に応じてきました。

② 震災が発生した平成23年3月当時の在籍児童生徒を対象に「思い出DVD」を作成して個々に送り届けました。「思い出DVD」は、各学校で保存していた写真記録の中から各校平均200枚の写真を選び、小学校版と中学校版の2枚に編集したものです。学校便りでDVD制作を事前に通知しまして、掲載を拒む家庭に配慮しました。

③ 株式会社アイデックスのご協力をいただき、「校歌がつなぐふくしま再生への思い」が企画され、各小・中学校の校歌と校舎写真をインターネットで配信しました。

（3）浪江町役場、教育委員会からの関わり

① 浪江町役場生活支援課が、なみえ「しゃべり場」を主催しました。夏休みを利用し

て学校ごとに児童生徒と保護者及び教職員が集まり、会津自然の家と郡山自然の家で計5回開催して、レクリエーション活動の場や保護者と町長との懇談の場を通じて絆を深めました。

② 3月23日、二本松で再開した浪江中学校において、全国に避難した中学3年生の卒業を祝う「卒業の集い」を浪江町小中学校長会との共催で開催しました。県内、県外から中学3年生と保護者が合わせて157名参加し、レクリエーションや食事会を通じて旧友や教職員との懇談を楽しみました。卒業生たちは、仲間との再会を喜び合うとともに、馬場町長の話を聴いてふるさと浪江町を思う気持ちを熱くし、浪江町民の一員としての自覚を深めていました。

③ 町広報にて「2012夏休みイベント招待事業」を掲載しました。

(4) NPO等外部団体からの関わり

浪江町十日市運営委員会・実行委員会が十日市の開催と合わせて浪江小学校の学習発表会の開催を紹介してくださり、全国の浪江町の子どもたちに参加を呼びかけて、大堀相馬焼絵付け体験を取り入れた事業を企画し、参加希望者を招待してくださいました。

〈心のケアのための活動〉

(1) 各学校からの関わり

① 動向調査

・児童生徒の居住地での生活の様子などを確認するために、教職員が状況に応じて分担する児童生徒宅に電話で様子を伺いました。登校渋りなど保護者の悩みに対して教職員が相談に乗ることも多く、不安を和らげるように励ましてきました。各校長は教職員からの報告を受けて、該当児童生徒の就学先小・中学校長と連絡を取り合い、子どもたちが穏やかに学校生活を送れるように側面からの支援を行いました。

② 学校訪問

・児童・生徒が区域外就学している県内の小・中学校を校長や教職員が訪問して、学校生活の様子を参観しました。児童・生徒と直接面談したり、就学先校長や担任と面談したりして、児童・生徒の様子を伺いました。厳しい状況の児童・生徒につきましては、保護者と直接面会したり、電話で話したりして状況を改善する策を講じてまいりました。

(2) 浪江町小・中学校長会、小中学校事務局からの関わり

① 保護者からの電話による教育相談に対応しました。

② 子どもたちの心情に配慮した調査の実施。

・全国に避難している浪江町の児童・生徒の現在の気持ちを伺うために、11月、「最近の気持ちはどうですか」の題で12項目の質問を設けて、一人一人の様子を伺いました。学校及び各校長の連絡先一覧表を質問用紙に同封して、相談窓口を案内しました。

・全体の回収率は40%でした。そのうちの7割の児童・生徒が落ち着いて明るい生活を送っている様子が伺われましたが、悲しみや孤独感を持つ児童も少数存在して

いたため、個別の対応を図りました。

・子ども自身のがんばりの実態も報告してもらい、保護者からは子どもの様子の説明や、教育委員会への意見を伺いました。

③ 中学校では、進路希望調査を実施しました。県外に避難している生徒宅には、福島県教委から当該教育委員会に依頼して、調査文書を届けていただきました。回収の後、中学校教職員が電話をかけたたり家庭訪問したりして、進路に関する個別の悩みの相談に応じました。

(3) 浪江町教育委員会からの関わり

① 7月26日、「いじめの問題に関する指導の方針」を校長会で周知し、6小学校・3中学校がそれぞれ子どもたちの情報をとらえ、いじめの未然防止・根絶を図りました。

② 福島県の県北地区に居住する中学生を対象に、保養のためにチェコ共和国に招待されるという行事がチェコ大使館の主催で企画されました。抽選により34名が「チェコ滞在保養プログラム」に参加し、夏休みを利用して10日間チェコ共和国に滞在してきました。

③ 浪江町に派遣されたスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーが関わり、困りごとを抱えている児童・生徒及び保護者に対する相談活動などの支援を行いました。

(4) NPO等外部団体からの関わり

① ビーンズふくしまにより、安達仮設住宅での保護者を対象とした教育相談を年間6回実施していただきました。

② 福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの主催による同窓会事業の中で、参加した保護者を対象に教育カウンセリングを行っていただきました。

〈居場所づくりや、学習支援のための活動〉

(1) 仮設住宅における学習支援活動の開催

「福島に夜間中学をつくる会」並びに「NPO法人ビーンズふくしま」の2つの非営利団体の協力により、4つの仮設住宅の集会所を利用して学習支援活動を開催していただきました。毎週1・2回、毎2時間程度の学習支援活動を実施していただきました。学習会は1年間で合計250回を超え、児童・生徒も、参加者数が延べ3,500人超でした。

(2) 福島大学のキャンパスでの学びと遊びの場

福島大学うつくしまふくしま未来支援センターが主催した「子ども土曜キャンパス」が年16回開催され、県北地区の児童・生徒が参加して学習やレクリエーション活動に取り組みました。毎回30人から50人の児童・生徒が参加して、福島大学の先生方や大学生のお世話になり、楽しい一日を過ごしていました。

【学校教育係の取組み状況】

平成24年度末の浪江小学校の在籍児童数は30名、浪江中学校生徒数は49名です。

廃校舎を借用しての学校再開は十分な教材・設備もなく、必要な教材等については学校側

と十分協議した上で予算化し、整備を図ってきたところです。

また、全国から学校へ教育支援金が届けられ、それを活用した備品等の整備にも大きく役立てられております。例えば、電子黒板やデジタル教科書の購入、各教室にエアコンの整備、i P a d等電子教材の購入、部活動用具の購入等々が整備されました。

その他、次のような事業を展開しました。

事業名	内容	補助事業の有無
通学バス運行事業	仮設・借上げ住宅からの通学手段の確保 町スクールバス5台、民間借上げバス7台運行	町スクールバスに対しては交付税、民間借上げバスに対しては県補助率10/10
スクールカウンセラー派遣事業	浪江小学校1名、浪江中学校1名を派遣し避難生活で苦しむ児童・生徒の相談事等にあたった。	県事業
スクールソーシャルワーカー派遣事業	浪江中学校を主として（浪小も対象）1名を派遣し避難生活で苦しむ児童・生徒の相談事等にあたった。	県受託事業
学校給食支援事業	東和学校給食センターに委託し、児童・生徒へ学校給食を提供	被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金活用 補助率10/10
児童介助員配置事業	障害を持つ児童への介助支援	町単独
思い出のDVD作成	3.11当時の児童・生徒の思い出の写真を収めたDVDを作成し配付した。	町単独
空間放射線量の計測	小・中学校とも毎日校舎内外の空間線量を計測し、安全の確保を行った。また、文科省が設置したリアルタイム線量測定システムにより学校環境の安全と、そのPRに努めた。	校舎内外9ヶ所から14ヶ所を計測し学校のホームページ等に、その情報を掲載した。
教職員の不祥事と信用失墜行為の根絶	「教師は関係者からの信頼なくして教育は成り立たない」の基本認識を共有し、各種会議や文書等によって教育公務員としての自覚と責任ある言行を促すことに努めた。	
浪江町内の小・中学校等教育施設の巡回	教育施設を巡回し、環境の現状把握に努めた。（補修等応急処理実施）	
被災文化財調査事業	警戒区域・計画的避難区域に指定のため詳細調査はできなかった。	

民俗芸能支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 請戸芸能保存会（田植踊） ・ 室原郷土芸能保存会（田植踊） 	福島県補助事業 地域のきずなを結ぶ民俗芸能支援事業 用具等新調及び交通費補助
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 請戸芸能保存会（獅子舞道具一式新調） 	（財）日本ナショナルトラスト 東日本大震災自然文化遺産復興事業プロジェクト 町文化スポーツ基金
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室原郷土芸能保存会（田植踊） ・ 南津島郷土芸術保存会（田植踊） ・ 標葉神社浦安の舞保存会（浦安の舞） ・ 請戸芸能保存会（田植踊） ・ 大堀芸能保存会（神楽） 	浪江町民俗芸能復興支援事業 用具等新調・交通費補助・記録作成等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 請戸芸能保存会（田植踊） ・ 室原郷土芸能保存会（神楽） ・ 本城御神楽保存会（神楽） ・ 津島郷土芸術保存連合会 	平成24年度文化庁補助事業 福島県「無形民俗文化財伝承復興事業」 衣装・用具等の新調及び修理
町史編纂事業	町史「原始・古代・中世」編の発刊に向け取り組んできたが、震災等により執筆の先生方（6名）及び協力員（3名）の先生方も被災されていて原稿の回収はできなかった。	

【取組み評価と、それに対する課題と今後の対応】

- ・ 両校とも小規模校ながら特色ある学校経営に取り組んでおり、町教委としてはそれに応えるため、いろいろな支援に努めてきたところです。
- ・ 次年度の入学児童・生徒は今年度よりも少なくなる見込みですが、子ども達が安全で、安心して学べる環境づくりに引き続き努めます。
- ・ 「学校だより」、「学年だより」、「学校のホームページ」、「町広報紙の学校紹介コーナー」その他の集会等を通じて、浪江小・中学校の安全で安心して学べる環境の良さ、特色ある学習、小規模校ならではの工夫された学習カリキュラム等をピーアールし、児童・生徒が一人でも多く戻って来るよう、学校と連携して取り組んでまいります。
- ・ 不定期ではありますが、浪江町内の小・中学校等教育施設の巡回を実施し、適正な管理に努めます。
- ・ 中学校から外国人語学指導助手の派遣要望があることから、次年度の配置に向け準備を進めます。
- ・ 町史編纂事務関係については、先ず、執筆者の原稿を回収し、その整理を行います。

また、旧石器、縄文、弥生のそれぞれの時代の考古資料が未完成で、この整理のためには経験者の確保が必要になりますが、この作業も徐々に進めてまいります。

そして、「原始・古代・中世」編の発刊については、避難生活という異常な状況下だからこそ、ふるさとへの思いや、絆を大切にすることから発刊に期待を抱いている方もおりますので、これを受けて今後の状況を見ながら町史編纂委員会を開催し、皆様のご意見をお聞きしたうえで再度計画を組んでまいります。

《有識者の主な意見》

- ・心のケアのための活動を引き続き継続し、子どもたちの不安や悩みを受けとめ、そして和らげる支援の強化に努めてほしい。
- ・町史編纂について、原発事故による全町避難という未曾有の状況に置かれているからこそ、しっかりと確実に作業を進めていくことが必要である。
- ・再開2校の空間放射線量の計測を今後とも継続し、安全で安心して学べる環境の良さを確保していただきたい。
- ・地域の芸能保存のための施策を、引き続き積極的に展開することを望みます。

《社会教育行政関係》

【生涯学習係の取組み状況】

<公民館事業>

- ・津島公民館及び中央公民館の各分館は休止中です。
- ・仮設住宅等で避難生活する住民の、生きがいと仲間づくりを目的とした「出前講座」への講師派遣事業に取り組みました。

No.	月 日	団 体 名	教 室 名	参加人数
1	5月7日	手仕事の会	踊り	19
2	5月7日	北幹線 扇の会	手芸教室	15
3	9月28日	杉田農村仮設住宅	フラワーアレンジメント教室	16
4	11月9日	平石仮設住宅（婦人会）	ガラス工芸	25
5	12月4日	いやしの会	社交ダンス教室	15
6	12月14日	手仕事の会	手芸教室	19
7	1月8日	いやしの会	社交ダンス教室	15
8	1月30日	浪江小学校 (生涯学習推進事業講演)	「思春期の悩み対応について」	25

<スポーツ活動事業>

- ・スポーツ関係では例年好成績を収めている「市町村対抗福島県軟式野球大会」、「市町村対抗福島県縦断駅伝大会」に、選手が全国各地に散り散りに避難している状況の中、監督他スタッフの懸命な努力により今年度も出場することができました。

成績は、市町村対抗福島県軟式野球大会・・・第3位

市町村対抗福島県縦断駅伝大会・・・総合で第33位、町の部で第14位、双葉郡8町村では6町出場し最高位でした。

- ・浪江町体育協会の事業が休止している中で、町民から被災前のスポーツ仲間の“絆づくり”を目的としたスポーツ大会の開催要望が多かったことから、今年度は町長杯として次の5種目の大会を開催しました。

No.	種 目	開 催 日	会 場	参加人数
1	パークゴルフ	9月16日(日)	日山PG場	98名
2	ソフトボール	10月6日(土)	岩代運動場	8チーム120名
3	グラウンドゴルフ	10月9日(火)	城山総合グラウンド	57名
4	ゲートボール	10月21日(日)	二本松市屋内GB場	25名
5	家庭婦人バレーボール	11月10日(土)	本宮市白沢体育館	6チーム70名

<図書館事業>

- ・東京都新宿区に本社を置く「株式会社アントレックス」から、福島市笹谷地内にミニ図書館「浪江 in 福島ライブラリー きぼう」の建物(21坪)と書架等備品、それに図書6,000冊の贈呈を受け、8月3日にオープニング・セレモニーを行いました。近隣には、浪江町の仮設住宅(笹谷東部182世帯、南矢野目208世帯)があり、町民及び地元福島市民も気軽に利用できる施設として、今後、情報サービスの提供や交流の場として期待されております。

【取組み評価と、それに対する課題と今後の対応】

- ・原発事故により仮設住宅及び借上げ住宅等に避難生活をしている現況で、生涯学習事業を展開するのは難しい状況ではありますが、不自由な生活の中にあつてこそ趣味等を活かしたサークル活動に生きがいを求める声があるため、出前講座を開設したことは有意義でした。講座開設の案内を広報紙や町のホームページでお知らせしましたが、当初の見込みよりは利用を希望する団体等が少なかったのが残念に思われます。今後の対策としては、仮設住宅の集会所を活用した生涯学習活動が考えられますが、住民の心を開かせ活動に高い関心を持てるような事業の選定が課題になります。
- ・今後、復興計画の進捗状況に沿って町民のニーズを取り入れ、各種事業の推進を図ってまいります。
- ・「市町村対抗福島県軟式野球大会」及び「市町村対抗福島県縦断駅伝大会」への出場は、浪江町の結束を図る上でも継続して出場することが肝要であるため、平成25年度予定している「スポーツ選手強化推進事業」の取り組みに力を入れてまいります。
- ・今年度開催した各種スポーツ大会は好評であることから、町民のニーズを聞きながら更なる充実を図ってまいります。
- ・仮設図書館の蔵書数はほぼ限界に達しているため、今後は利用者の要望等を聞きながら新刊図書の入れ替えや、県立図書館の移動図書館の利用を行いながら、図書の充実を図ってまいります。

《有識者の主な意見》

- ・ミニ図書館「浪江 in 福島ライブラリー きぼう」のオープンは、町民が本を読む楽しさを思い出すとともに、厳しい避難生活のひと時を和らげるものとして大変すばらしい。今後は、図書選定や広報活動をさらに充実させる等、情報発信の強化に努めて欲しい。
- ・「出前講座」については継続し実施していただきたい。今後は、さらなる充実を図るため開催場所や情報発信を工夫し、移動手段のない方や借上げ住宅に避難している方も参加できるような対策を講じていただきたい。

《文化及びスポーツ振興育成事業関係》

【取組み状況】

浪江町文化及びスポーツ振興基金を活用し、文化及びスポーツ活動の振興及び育成を図るため活動団体等へ助成金を交付しました。

区 分	出場大会等	件 数 (件)	助 成 額 (円)
スポーツ事業	全国大会	7	270,000
	東北大会	12	330,000
文化事業	全国大会	1	400,000
	成果発表他	2	350,000

全町民が町外で避難生活を強いられている状況の中、中学生や高校生が区域外就学校又は、県立高校サテライト校で部活動に熱心に取り組んだことから東北大会や全国大会へ出場することが可能となり助成金の申請が特に注目されました。

避難先の学校で自分の得意種目に一生懸命努力するなど、生活の励みにも結びついているところに、この基金制度の意義が感じられます。

【取組み評価と、それに対する課題と今後の対応】

- ・平成2年4月からこの基金制度を開始していますが、基金原資の確保が大きな課題です。
- ・スポーツ事業・文化事業ともに年々活動が盛んになってきておりますので、今後も、これらの活動を支援・奨励し、町民の文化意識の高揚と健康で心身ともに豊かで活力ある“まち”の建設に努めていきます。

《有識者の主な意見》

- ・基金原資の確保については、さらなる取り組み強化をお願いしたい。
- ・活動団体に交付された助成金の使途については、可視化できるような事務処理を行うよう、当該団体に対し指導していただきたい。

《学校教育関係》

平成24年度 浪江小学校、浪江中学校の重点取り組み状況等

項目	浪江小学校	浪江中学校
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・避難先での学校立ち上げから約1年7カ月、学校から「被災」を払拭し、新しい浪江小学校で「生き生きとした笑顔あふれる学校」を目標に、児童の良さや可能性を生かす学校教育に取り組んでいる。 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導計画の計画的見直しに努めるとともに、12月には学校評価を実施し、教育活動の工夫・改善に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のグランドデザインの中で、「ふるさと浪江を愛し、思い続ける生徒の育成」を目指し、実践事情を具体的に設定し、計画的・組織的に実践している。 ・生徒や保護者による学校評価を実践し結果を公表するとともに、教育委員会との連携を図りながら学校の運営改善に取り組んでいる。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・役場職員に浪江町の復興の話を聞き、浪江町の将来について考える学習を進めてきたが、将来の自分の仕事等にも関心を持つ姿が見られた。 ・総合的な学習の時間の「ふるさとなみえ科」で、将来の自分達の姿や復興する浪江町を考える学習を進め、キャリア教育の一端を担っている。 ・生活科、社会科等で、二本松市内や学校周辺の商店を見学し、大人がどんな仕事をしているか、調べ学習を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況や生徒の実態を把握し、組織的なキャリア教育が実施できるよう教育課程を見直し、改善、充実を図ってきた。 ・キャリア教育についての共通理解を図るため、校内研修の充実を図ってきた。 ・教育方針にキャリア教育の充実を掲げ、組織的にキャリア教育を推進してきた。特に、職場体験学習においては、二本松市や針道の民間企業との連携・協力を図りながら、充実した体験学習が実施できた。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書や電子黒板を効果的に活用して学ぶ意欲を高めるとともに、思考力、表現力を高める授業の工夫に努めている。 (ICTを活用した教科指導) ・小人数のT-T指導を工夫して基礎基本の認識及び技能の習得に努めている。 ・児童の実態を把握し、自力解決の時間を十分に確保した授業を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を明確にした授業を展開するとともに授業改善を図り、日々の授業の充実を図った。 ・生徒がつまづきやすい学習内容については、繰り返し学習や体験に基づいた理解に努めるなど学力向上に取り組んできた。 ・定着確認シートを活用し、生徒の学習状況の把握と指導改善・充実に努めてきた。今後も授業改善の検証システムとして確立させていきたい。 ・美文朗読については、国語科における発展学習として活用している。また、学級の朗読タイムを朝の学習時間に定期的に位置づけ、詩や古典・漢文の朗読に取り組んでいる。生徒の学習意欲の向上に役立てている。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数であるので、ブロック（低中高）ごとに授業を実施し、多様な考え方を引き出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うとともに、学校の実態や生徒の

教育	<p>たり、話し合いの充実を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの良さやがんばりを認め、掲示コーナーを作り全校生で取り組んだり、誕生会を全校生で実施したりすることで、他の学年を思いやる気持ちが育っている。 ・縦割りの集団の良さが生かせる活動を多く行っている。 	<p>発達の段階に応じた指導内容の重点化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を中心に指導上の課題を明確にし、全教職員による取り組みを推進している。 ・給食や掃除の縦割り班活動の実施及び体験活動の取り入れ、基本的な生活習慣や社会規範の育成に取り組んできた。
体育・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた器具・用具の中で、楽しく運動に取り組めるように場の設定を工夫している。 ・スポーツ大会、水泳教室等を通し、児童が運動に取り組む機会を保障してきた。 ・ゲストティーチャー（栄養士・養護教諭）により食育や健康な体への意識の高揚と実践化に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加配教員を有効に活用することにより T・T 授業の体制をとり、個に応じたきめ細やかな指導に努め、生徒一人一人の体力向上を図ってきた。 ・食の指導については、栄養技師が中心となり担任と連携を図りながら協同作業を行うなど指導の充実を図っている。 ・生活習慣調査を実施し、「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムづくりに全体指導や個別指導を行っている。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、個々の障がいや発達段階に応じた支援に役立てている。 ・通常学級との交流学习を出来るだけ多く計画することにより、学習の楽しさを味わうとともに、人間関係が豊かになるよう努めている。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での情報交換に努め、生徒指導委員会の機能を生かして、問題行動の防止及び必要な対策を講じてきた。 ・毎日、職員全員が児童に声を掛け、一人一人の変化に対応し、サポート・ケアに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導における校内体制を整備し、教職員の共通理解や連携を図りながら組織的に取り組んでいる。特に、毎週、定期的に生徒指導委員会を開き、情報交換や取り組みの確認をするなど問題行動の未然防止に努めた。 ・心のケアへの対応として教育相談体制の充実を図った。養護教諭との連携を密にし、S・S・W や S・C の積極的な活用を図り、教育相談の充実に取り組んだ。
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動に放射線教育を位置づけ、先進校の実践を参考にして計画的に指導した。 ・スクールバス指導、仮設訪問等で児童の実態を捉えた安全指導を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員の役割や責任を明確にし、機能的で実践的な防犯体制を整備した。 ・計画的に安全点検を実施し、必要に応じて改善処置をとってきた。

<p>・校舎内外の点検を定期的に行い、児童が安全に生活できる環境づくりに努めている。</p>	<p>・防犯マニュアルに基づいた避難訓練等を実施し、課題を明確にして改善・改良を図ることにより学校の状況や地域の実情に即した実践的な防災マニュアルへの見直しを行った。</p>
--	---

【取り組み評価と、それに対する課題と今後の対応】

浪 江 小 学 校	浪 江 中 学 校
<p>【取り組み評価】</p> <p>昨年4月当初は、新入生を2人迎えて28人でのスタートであった。その後2名の転入があり、現在は30人の児童が学んでいる。</p> <p>「教室の中では、子供たちに『分かる』『できる』体験を多く積み重ねさせたい。」と取り組んできたこの1年間で、子どもたちは精神的にも逞しくなり、いまの自分を自らのことばで表現できるようになってきた。また、震災直後は避難先の学校に適応できないでいた子どもたちも、本校に来てからは教職員が一丸となって一人一人に寄り添うように組織的な支援をし続けてきた成果が実り、全員が元気に登校できるようになった。</p> <p>避難生活による学力低下の危惧への対応については、少人数であることの利点を生かし、算数科中心にT・T指導も取り入れて、個に応じた指導の徹底に努めた。さらに、全教室に配置した電子黒板を活用するために購入した国語、算数等のデジタル教科書を生かして、学習の個別化に取り組み、大きな成果を上げることが出来た。</p> <p>自分の育った町や家に戻ることが困難である今こそ、浪江町の人々との交流を図りながら浪江町の産業・文化・伝統等を学び、未来の姿を考えていく意義は大きいと考え、総合的な学習の時間を中心に「ふるさとなみえ科」の学習を進めてきた。はじめは、上級生になったらろくろを使って湯飲みや皿等を製作する大堀相馬焼体験を活動の中核に据えた郷土教育を展開していたが、浪江町職員を招いて浪江町復計画の説明を受けてからは帰還後の町についての議論が盛り上がり、いつの</p>	<p>【取り組み評価】</p> <p>・「ふるさと浪江を愛し、想い続ける生徒の育成」を目指し、総合学習での浪江町の学習や全校生での陶芸教室やふるさと浪江講演会などに取り組み、特色ある教育活動を推進することができた。</p> <p>・震災加配や兼務教員の配置などを活用して、国語・数学・英語・保健体育・家庭科などでTT（チームティーチング）を実施して学力向上に努めた。</p> <p>・「学校訪問」や「学習習慣、生活習慣育成事業」などの機会に指導主事に授業を参観していただき、授業力の向上に努めることができた。</p> <p>・キャリア教育では、職場体験や地域行事への参加などを通して、地域の一員としての自覚を得ることができた。また、将来の生き方や進路を考えさせるよい契機となった。</p> <p>・学級の朗読タイムを朝の時間に位置付けて定着を図ったが、生徒の学習意欲の向上に大きくつながった。</p> <p>・道徳の時間における指導の重点や特色を明確にして指導に当たることができたため、充実したものとなった。</p> <p>・生徒指導では、生徒理解に基づく教育相談を効果的に行うことができた。</p> <p>・安全指導では、全体計画が実態に応じて適切に作成されており、その活用も図られた。</p> <p>・少人数ではあるが、運動面では、陸上競技やバドミントン大会において地区予選を勝ち抜き、県大会出場を果たすことができた。</p> <p>【課題】</p>

間にか「未来のふるさとなみえ」の学習会へと、そして、立体模型の作成にまで発展した。

【課題】

全児童が仮設住宅等での生活を余儀なくされている現状では、学習内容を補完する場を家庭学習に求めることが困難な状況にある。また、家庭の教育機能の低下も顕著であり、学力低下の起因を学校外に求めるだけでは問題の解決にならないことが明らかになった。

来年度は、総合学習の時間に「ふるさとなみえ科」を取り入れて2年目になる。はじめは、避難の長期化で町への愛着が薄れるのを防ぐために、町の伝統文化を学ばせたいとの思いから始めたものであった。浪江町の伝統文化に触れたり、町民と交流したりする活動をふんだんに盛り込み子どもたちは活発に活動していたが、それが普段の生活への改善へとは結びつかなかった。

【今後の対応】

「学習は学校内で完結させよう。」を合い言葉に、少人数であることの利点を最大限に生かすために、T・T指導を常態し習熟度別学習も取り入れたい。さらに、昨年末導入したタブレットPCの活用方法を研究し、学習の個性化を目差したい。

「ふるさとなみえ科」は、総合的な学習の時間ばかりではなく各教科ともリンクさせ、「浪江でまなび 浪江でおしえ 浪江でかんがえる」の実践へと結びつける仕組みを構築していく。まずは地域人材の積極的な活用を促進するとともに、学校に町民を呼び込んだり、子どもが町民の中に入っていったりする活動を増やしていきたい。

・学習への取り組みは良好であるが、定着が不十分である。

・ふるさと教育については、マンネリ化、形骸化とならないよう進めていく必要がある。

・学校図書館の蔵書が不足し、調べ学習などに不便を感じている。

・生の英語に触れさせるために ALT（外国人語学指導助手）を配置して欲しい。

【今後の対応】

・TTのより効果的な指導方法を研究していきたい。

・授業と家庭学習の連携については、さらに保護者への啓発を工夫する。

・生徒指導では、ケース会議や不登校対策会議等を積極的に開催していく。

・生活習慣も含めた食習慣の確立のために、保護者と連携を図っていく。

《有識者の主な意見》

- ・キャリア教育は大変素晴らしいので、さらに充実して欲しい。税・年金・選挙等の体験学習も検討してはどうでしょうか。
- ・詩・古典・美文朗読は、道徳教育や読書活動を推進し、豊かな心を育む具体策であり、人の心にいつまでも残るものです。また、避難生活の中で心の糧となっており、いつまでも続けていくことが必要であると思われます。
- ・生徒指導については、共通認識のうえに立って教職員全員で問題に当たり、その解決を図ることが重要です。また、SSWや町の保健師とネットワークを作り仮設住宅を巡回訪問し、児童・生徒の置かれている劣悪な環境での厳しい避難生活の精神的ケアに努めていることは、重要であり大変評価できます。是非続けていただきたい。
- ・原子力災害に伴い放射線教育は実施されているようですが、子どもたちが自然災害等から身を守るための、防災教育を実施することも必要ではないでしょうか、検討してください。
- ・避難先の再開校としてマスコミにたびたび採り上げられ、数々の支援、招待を受けているが、そのことにより子どもたちの生活習慣や学習に影響が出ないように取り組んでください。
- ・スクールバスの運行については引き続き充実した取り組みをお願いします。

平成24年度教育行政点検・評価の時系列報告書

月	日 ()	事 業 名	附 記
4月	2日 (月)	教育委員会職員辞令交付式 (10名)	第二事務所
		教職員着任式 (5名)	浪小
		新たに着任した校長の宣誓式 (2名)	第二事務所
		第1回 小・中学校長会議 (浪小) ・平成24年度の校長会議の持ち方について ・平成24年度教育施策の方針について ・復興ビジョンと教育施策の概要について、他	浪小
	6日 (金)	浪江小・中学校入学式 ・浪小：新1年生2名、全児童数28名 ・浪中：新1年生7名、全生徒数49名	浪小浪中
	8日 (日)	平野博文文部科学大臣、浪江小学校視察 ～ 45分間 ・浪江小・中の再開の経緯 ・学校再開後の課題 ・子どもたちの思いを汲んだ浪江町復興の道筋 ・学校の現状と学校経営の概要等について説明する。 大臣からの発言 子どもアンケートへの深い関心から「浪江が好きで、戻りたいと 思っている大勢の子どもたちと、その家族が戻って生活できる状況をつくり出すために、学校関係者も行政と一体となって努力して欲しい。文部科学省としても現場の実態を把握することに努めながら、子どもたちのためにできるだけのことをする。」とコメントがありました。	浪小
	16日 (月)	平成24年度福島県町村教育長協議会総会	県庁
		平成24年度福島県市町村教育委員会教育長会議	福島テルサ
		浪江小学校の総合的学習の時間に「ふるさとなみえ科」を立上げる。 スローガン：浪江でまなび、浪江でおしえ、浪江をかんがえる ・調べ学習や体験学習を通して浪江町の伝統や良さを学習する。	浪江小学校
	17日 (火)	平成24年度全国学力・学習状況調査実施 ・浪小：希望校として実施 6年生＝国語、算数、理科 ・浪中：抽出校であるが、小人数を生かしたきめ細かな日々の指導によって学力の育成を図ることを重視し、実施を見送る。(3年生＝国語、数学、理科)	
	18日 (水)	福島県市町村教育委員会連絡協議会・第1回理事会 (教育長)	福島テルサ
	19日 (木)	浪江町議会臨時会 ・一般会計補正予算 ・条例改正 (5件) ・復興ビジョンの策定	安達自治センター
	22日 (日)	第15回日吉マラソン大会招待参加 (選手5名、随員2名)	京都府南丹市
	23日 (月)	浪江町教育委員会 第6回定例会 ・教育長報告 ・「課長専決規程」の一部改正	第二事務所
25日 (水)	双葉地区教育長会・第1回定例会 ・平成23年度事業報告及び会計決算報告 ・平成24年度事業計画 (案) 及び予算 (案)	三春町 (葛尾村仮設集会所)	
	域内教育長及び小・中学校長会議 ・平成24年度県教委の施策と相双教育事務所の重点事項等	三春町合同庁舎	

月	日 ()	事 業 名	附 記
4月	26日 (木)	第2回 小・中学校長会議及び第1回学校再開準備会 ・情報収集と活用について ・「町民みんなの学校としての情報発信」(復興ビジョンで提唱)	第二事務所
	27日 (金)	浪江町行政区長会総会(教育長、教育次長)	パレスかねすい
5月	7日 (月)	チェコ共和国招待(7/31~8/13) 「福島の子どものためのチェコ保養滞在」に関する打合せ会 ・チェコ共和国副大使と担当者来町	第二事務所
	11日 (金)	浪江町内の教育施設現況確認(教育長、他)	浪江町内
	21日 (月)	浪江町議会臨時会 ・工事請負契約の締結(役場庁舎建設工事) ・物品購入契約の締結(放射能・放射線測定器購入)	安達自治センター
	25日 (金)	浪江町教育委員会 第7回定例会 ・教育長報告 ・平成23年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告	第二事務所
	30日 (水)	福島県市町村教育委員会連絡協議会・平成24年度定期総会 (星委員長、教育長) ・平成23年度事業及び会計決算報告 ・平成24年度事業計画(案)及び予算(案) ・役員改選 他	福島テルサ
	31日 (木)	第3回 小・中学校長会議及び第2回学校再開準備会 ・「福島の子どものためのチェコ保養滞在プログラム」 ・学校からのランドセル等の持出し ・不登校等、特別な対応を要する子ども達への支援、他	第二事務所
6月	1日 (金)	第1回 浪江町復興計画策定委員会(教育長、他) この会議は、今後継続開催予定	男女共生センター
	12日(火) ~ 20日(水)	浪江町議会 6月定例会 ・一般会計・特別会計補正予算(案) ・役場二本松事務所設置条例等の一部改正 ・副町長の人事案件 他	安達自治センター
	19日 (火)	台風4号の通過に伴う浪江小・中学校の特別措置 ・19日の深夜から20日の朝にかけて福島県に最も接近する進路予報の対応措置として登校時間を2時間遅らせる。 ・台風4号は予想よりも早く通過し、登校時間帯は穏やかな天候に戻った。子どもたちは、2時間遅れの登校に混乱することなく、通常の学校生活に戻った。	
	24日 (日)	贈呈・新潟ロータリークラブ様から 震災遺児・孤児(11名)へ見舞金(110万円)	第二事務所
	25日 (月)	浪江町教育委員会 第8回臨時会 ・教育長の任命について(辞令発令6月25日)	第二事務所
		浪江町教育委員会 第9回定例会 ・一般会計補正予算(案) ・文スポ専決処分の承認 ・奨学資金に係る奨学生の決定、他	
26日 (火)	平成24年度浪江町体育協会総会 ・平成22・23年度の事業及び会計決算報告 ・平成24年度事業については、本格的な活動を再開するには至りませんが、前年度と同様にふくしま縦断駅伝競走大会、県社会人軟式野球大会には出場することを確認する。 また、町事業として、6種目の町長杯大会や文スポ振興基金助成事業を活用した競技の開催を推進する。	安達自治センター	

月	日 ()	事業名	附記
6月	27日 (水)	双葉地区教育長会・第2回定例会 ・各町村の小・中学校再開準備や帰町準備についての意見交換 ・文科省福島県支援担当者と福島大学教授らとの話し合い	三春町 (葛尾村仮設集会所)
	28日 (木)	第4回 小・中学校長会議及び第3回学校再開準備会 ・夏休みに向けた児童・生徒の指導のあり方 ・避難中の児童・生徒の状況と対応、他	第二事務所
7月	1日 (日)	絆づくりゲートボール大会 (浪江町ゲートボール協会主催：30名)	二本松市郭内 GB場
	5日 (木)	学校窓ガラス修理 (幾世橋小学校、大堀小学校)	
	8日 (日)	舞踊ふるさと会福島県発表会・浪江舞踊ふるさと会参加 (9名)	郡山市ユラックス熱海
	15日 (日)	「福島の子どもたちのチェコ保養滞在プログラム」参加者事前説明会 ・中学生35名、引率教員4名出席	市勤労研修センター
	18日 (水)	第5回 小・中学校長会議及び第4回学校再開準備会 ・夏休みに向けた児童・生徒の指導のあり方 ・「福島の子どもたちのチェコ保養滞在プログラム」の確認 ・避難中の児童・生徒の状況と対応、他	第二事務所
		学校窓ガラス修理 (浪江小学校、幾世橋小学校、大堀小学校)	
	20日 (金)	小・中学校 第1学期終業式 7/21～8/24	
	24日 (火)	浪江町教育委員会 第10回定例会 ・浪江町町史編纂委員会等規程の一部改正 ・文スポ助成事業の専決承認及び決定 ・平成25年度使用教科用図書採択、他	第二事務所
	26日 (木)	「いじめの問題に関する指導の方針について」(教育長通知) ・いじめが引き起こす深刻な問題が数多く報じられている。そこで、いじめの問題から子どもたちを守るためには教育委員会と学校等との緊密な連携が重要であるとの従来からの認識を再確認し、浪江町教育委員会としての、いじめ問題に関する指導の方針を取りまとめ各学校に通知し、指導の徹底を図る。	
	27日 (金)	なみえの“しゃべり場”集まれ!浪江のなかま ・7/27 郡山自然の家 請戸小学校、浪江東中学校 (83名) ・7/30 会津自然の家 浪江小学校 (189名) ・8/17 郡山自然の家 浪江中学校 (33名) ・8/20 会津自然の家 荻野小学校、大堀小学校 (227名) ・8/24 郡山自然の家 幾世橋小学校、津島小学校、津島中学校 (23名)	
	28日 (土)	幾世橋小っ子再会の集い ～30日 親子90名参加	那須甲子青少年自然の家
31日 (火)	「福島の子どもたちのチェコ保養滞在プログラム」参加者出発 団長：糺田祐子・中学生34名、引率教員4名		
	仮設図書館・「浪江in福島ライブラリー きぼう」引渡式 ・寄贈者 株式会社アントレックス (東京都新宿区)	福島市笹谷	

月	日 ()	事 業 名	附 記
8月	3日 (金)	仮設図書館・「浪江in福島ライブラリー きぼう」 開所式 ・福島市笹谷東部仮設住宅の隣接地に建設した図書館は、浪江町民はじめ福島市民の交流の場として利用が期待される。 ・愛称は、公募により「きぼう」と命名された。 ・応募者の中から厳選した結果、浪江町川添の志賀千鶴さんの作品に決定。 ・W. A L Cパネル工法：福島県産の木材を利用し、再生可能な建築資材である。建物の面積は69.56㎡(21坪)	福島市笹谷
	4日 (土)	ふくしま縦断駅伝競走大会出場選手第一次選考会兼強化合宿 ・31名参加 ～5日(日)	鏡石町町営鳥見山陸上競技場
	11日 (土)	県社会人軟式野球出場選手初練習	白沢球場
		大堀幼稚園・交流会	いわき市ハワイアンセンター
	12日 (日)	長渕 剛ライブ招待事業 (H23年8月1日～7日霧島市招待者対象) ・小学生とその保護者、引率者55名参加	郡山市民文化センター
	20日 (月)	域内教育長及び小・中学校長会議 ・出席者からは、「会議内容と説明が一般的であり、原発事故によって双葉郡の教育が置かれている特殊で困難な状況を必ずしも十分に踏まえていない。」との指摘と、「厳しい現状を踏まえ、そこから双葉郡の教育が立ち上がるための方向性や方策を示すべきだ。」との要望が出された。	郡山市県養護センター
	21日 (火)	福島県市町村教育委員会連絡協議会・支会長研修会 (星委員長、青田委員長職務代理者、教育長)	福島テルサ
	27日 (月)	小・中学校 第2学期始業式	
	28日 (火)	浪江町教育委員会 第11回定例会 ・一般会計9月補正予算(案) ・文スポ特別会計9月補正予算(案) ・「浪江in福島ライブラリー きぼう管理規程」の制定、他	第二事務所
	30日 (木)	第6回 小・中学校長会議及び第5回学校再開準備会 ・児童・生徒の状況と今後の対応 ・当面する諸課題への対応 ・町議会の動き、他	第二事務所
双葉地区教育長会・第3回定例会 ・文部科学大臣への要望活動の内容協議		福島グリーンパレス	
9月	3日 (月)	寄贈・Marching J 近藤真彦様から浪江小・中学校へ教育資金として(1,100万円)	
	4日 (火)	浪江中学3年生・吉田千笑さんが「安達地区英語弁論大会・暗誦の部」で優勝し。県大会出場権を得る。(9/14 猪苗代町)	浪江中学校
	6日 (木)	福島県市町村教育委員会連絡協議会双葉支会総会 ・平成23年度事業報告及び会計決算報告 ・平成24年度事業計画(案)及び予算(案) ・平成25年度使用教科用図書の採択 ・役員改選 他	男女共生センター
		浪江小学校「ふるさとなみえ科」で町の復興計画について学習	浪江小学校
	8日 (土)	第6回市町村対抗福島県社会人軟式野球大会開会式 決勝戦は、10月28日(日) 成績 = 第3位 ・1回戦 シード ・2回戦 川内村 2対0 ・3回戦 富岡町 8対3 ・4回戦 郡山市 1対0 ・準決勝戦 白河市 0対2 惜敗	県営あづま球場

月	日 ()	事 業 名	附 記
9月	10日(月) ～ 21日(金)	浪江町議会 9月定例会 ・平成23年度決算の認定(一般会計・特別会計) ・浪江町東日本大震災復興交付金基金条例の制定 ・各条例の一部改正 ・平成24年度補正予算(一般会計・特別会計) ・特別功労者の決定。他	安達自治センター
	13日(木)	浪江小学校「ふるさとなみえ科」で大堀相馬焼き陶芸教室体験	陶芸の社おおぼり 二本松工房
	16日(日)	浪江町長杯パークゴルフ大会 (98名参加)	日山パークゴルフ場
	25日(火)	浪江町教育委員会 第12回定例会 ・浪江町郷土芸能復興支援事業補助金交付要綱の制定、他	第二事務所
	26日(水)	双葉地区教育長会による文部科学大臣へ要望活動 ・教育特区の創設(例えば、県立高校サテライト校の集約、幼、小・中学校一貫教育) ・人的支援(教育困難事情校へ特別配置教職員制度の継続と増配、SC、SSWの常勤配置、特別支援学級への学級担任補助者の配置) ・財政的支援(就学援助費の継続的支援、絆づくりへの支援) ・復興の動きのリード(文科省が復興の動きを積極的にリード)	東京
27日(木)	第7回 小・中学校長会議及び第6回学校再開準備会 ・児童・生徒の状況と今後の対応 ・避難先での状況を把握するための調査 ・9月町議会の動きと対応、他	第二事務所	
10月		浪江町役場・浪江町教育委員会事務局移転 ・二本松市北トロミ573番地 ・教育委員会は、本庁から、津島支所へ、二本松市東和支所へ、県男女共生センターへ、旧東北電力社屋(役場第二事務所)、そして今回の仮庁舎へ、5回目の移動となる。	二本松市平石工業団地内
	1日(月)	台風17号の通過に伴う浪江小・中学校の特別措置 ・9月30日(日)から10月1日(月)にかけて福島県に最も接近、或いは縦断するとの予報の対応措置として、登校時間を2時間遅らせる。 ・台風17号は予想以上に速度を速め1日の朝には青森県太平洋上に達して、通学には全く支障のない状態に至った。 今後の対応として ・台風への対応の判断には、今回のような見込み違いが生じることもあるが、避難先の生活ということで子どもたちの居住地が広範囲である上に、保護者は土地勘などで不安なことが多く、保護者への送迎の協力を求めることが適当でないこと、町単独の緊急一斉広報(防災無線)ができないこと、スクールバスによる一斉登校に不必要な混乱を期さないことなどを考慮しながら、今後も子どもたちの安全確保を最優先に対処していく。	
	6日(土)	津島小・中学校同窓会(福島大学企画) ・10/6～7日、西郷村那須甲子青少年自然の家で開催 津島地区の小・中・高生ら28名が参加	那須甲子青少年自然の家
		浪江町長杯ソフトボール大会 (120名参加)	岩代運動場
	7日(日)	浪江町消防団秋季検閲式 第22回福島県市町村ゲートボール大会(愛沢チーム参加)	旧針道小学校体育館 いわき市
9日(火)	浪江町長杯グラウンドゴルフ大会(57名参加)	城山総合グラウンド	
12日(金)	浪江町議会臨時会 ・浪江町復興計画(第一次)(案)の審議	役場二本松事務所	

月	日 ()	事 業 名	附 記
10月	13日 (土)	浪江小学校大運動会 ・2年ぶりの開催 ・スローガン「全員の力を合わせ がんばろう！」	浪小校庭 (旧下川崎小)
	21日 (日)	浪江町長杯ゲートボール大会 (25名参加)	二本松市屋内GB場
	22日 (月)	復興計画・賠償・除染・区域見直し等住民説明会～11月18日 ・県内8ヶ所、県外6ヶ所 計14ヶ所で開催	郡山市ビックパレット
	26日 (金)	第8回 小・中学校長会議及び第7回学校再開準備会 ・児童・生徒の状況と今後の対応 ・避難先での状況を把握するための調査 ・浪江町復興計画 (第一次) と住民説明会 ・平成25年度教職員人事関係会議に臨む基本姿勢 ・思い出のアルバム (DVD) の試作品 ・浪江小・中学校、平成25年度入学生確保のための活動、他	役場二本松事務所
	30日 (火)	浪江町教育委員会 第13回定例会 ・文スポ助成事業の専決承認及び決定 ・教育委員長・教育委員長職務代理者の選任 教育委員学校訪問 ・浪江小学校 11:00～12:45 ・浪江中学校 13:10～14:20	仮役場二本松事務所 浪江小・中学校
11月	3日 (土)	第40回浪江町功労者表彰式 教育関係 ・特別功労表彰 3名 ・功労表彰 1名・2団体 ・善行表彰 3名・8団体	二本松御苑
	7日 (水)	域内市町村教育長会議	安達公民館
	10日 (土)	浪江町長杯家庭婦人バレーボール大会 (70名参加)	白沢体育館
	18日 (日)	第24回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会 ・距離 = 16区間 96.5km ・成績 = 総合33位、町の部14位	白河市～福島市
	23日 (金)	平成24年「復興十日市祭」で学習発表 ・小・中学生の習字、絵、工作、大堀相馬焼等を展示 ・浪小=創作劇、よさこい踊り、浪江町復興への思いの発表 ・浪中1.2年生参加=よさこい踊り、3つの中学校校歌合唱	二本松市市民交流センター
	27日 (火)	浪江町教育委員会 第14回定例会 ・文スポ助成事業の専決承認 ・一般会計12月補正予算 (案)、他	役場二本松事務所
	28日 (水)	第9回 小・中学校長会議及び第8回学校再開準備会 ・避難先での状況を把握するための調査 ・当面の課題への対応 ・平成25年度教職員人事事務 ・思い出のアルバム (DVD) 作成 ・冬季休業に向けた生徒指導の充実 ・いじめ事案に関する警察への相談・通報 ・教職員不祥事防止の指導の徹底 ・平成25年度進路希望調査 ・学校給食米の使用基準と放射性物質の検査方法及び弁当持参の取り扱い、他	役場二本松事務所
12月	11日 (火) ～ 18日 (火)	浪江町議会 12月定例会 ・12月補正予算 (一般会計・特別会計) ・条例の一部改正 ・人事案件 (2件)	役場二本松事務所
	16日 (日)	第46回衆議院議員選挙	

月	日 ()	事業名	附記
12月	18日 (火)	第1回双葉郡教育復興に関する協議会 ・基本的事項の確認 ・今後の活動計画等について協議	郡山市大槻公民館分室
	19日 (水)	第10回 小・中学校長会議及び第9回学校再開準備会 ・避難先での状況を把握するための調査 ・当面の課題への対応 ・平成25年度教職員人事事務 ・思い出のアルバム (CD) 作成 ・冬季休業に向けた生徒指導の充実 ・いじめ事案に関する警察への相談・通報 ・教職員不祥事防止の指導の徹底 ・平成25年度進路希望調査 ・学校給食米の使用基準と放射性物質の検査方法及び弁当持参の取り扱い、他	役場二本松事務所
	21日 (金)	小・中学校 第2学期終業式 12/22～1/7	
	26日 (水)	浪江町教育委員会 第15回定例会 ・文スポ助成事業の専決承認 ・委員長職務代理者の選任、他	役場二本松事務所
	28日 (金)	仕事納め	
1月	4日 (金)	仕事始め	
	8日 (火)	第3学期始業式	浪江小・中学校
	13日 (日)	平成25年浪江町成人式 成人対象者 241名 出席者 202名 出席率83.8%	安達文化ホール
	15日 (火)	第2回双葉郡教育復興に関する協議会 ・議論の前提となる共通理解について ・双葉郡の将来を担う人物像・双葉郡ならではの魅力ある教育について	福島大学内会議室
	17日 (木)	福島県市町村教育委員会連絡協議会・第2回理事会 (教育長)	福島テルサ
	21日 (月)	第11回 小・中学校長会議及び第10回学校再開準備会 ・各学校及び学校事務局からの情報報告 ・平成25年度人事異動について ・児童・生徒及び教職員への支援活動について、他	役場二本松事務所
	25日 (金)	平成25年教育委員会 第1回定例会 ・浪江町立小・中学校の位置変更について ・一般会計1月補正予算 (案)	役場二本松事務所
	30日 (水)	浪江町議会文教厚生常任委員会及び全員協議会 ・津島小学校・津島中学校の位置変更による再開について	役場二本松事務所
2月	4日 (月)	浪江町教育委員会 第2回臨時会 ・浪江町立小・中学校の位置変更の施行について (津島小学校及び津島中学校の位置変更については、当分の間、その施行を見送る。)	役場二本松事務所
	26日 (火)	浪江町教育委員会 第3回定例会 ・専決処分の承認 (文スポ) を求めることについて ・文スポ振興育成事業の決定について ・浪江町図書館条例の一部改正について ・浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について ・H24年度浪江町一般会計補正予算について ・H25年度浪江町一般会計予算について ・H25年度浪江町文化及びスポーツ振興育成事業特別会計予算について	役場二本松事務所

月	日 ()	事 業 名	附 記
2月	27日 (水)	第12回 小・中学校長会議及び第11回学校再開準備会	役場二本松事務所
3月	5日 (火)	3月議会定例会 ～ 19日 (火) まで 教育委員会関係提出議案 ・浪江町図書館条例の一部改正 ・浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正 ・H24年度浪江町一般会計補正予算 ・H25年度浪江町一般会計予算 ・H25年度浪江町文化及びスポーツ振興育成事業特別会計予算	役場二本松事務所
		双葉地区教育長会・第4回定例会 ・教職員人事関係について	郡山市
	7日 (木)	浪江町教育委員会 第4回臨時会 ・平成25年度教職員人事異動に係る内申について ・その他	役場二本松事務所
	8日 (金)	議会文教厚生常任委員会 ・3月定例議会提出議案審議	役場二本松事務所
	11日 (月)	東日本大震災追悼式・約200名出席 ・H25.3.11現在 津波などの犠牲者184名、うち行方不明者33名	二本松市 ほうりん
	13日 (水)	浪江中学校卒業式 卒業生20名 (男14名、女6名)	浪江中学校
	19日 (火)	浪江町教育委員会 第5回定例会 ・浪江町教育委員会職員の人事異動について ・浪江町学校職員等安全衛生規則の制定について ・浪江町教育委員会事務局組織規則の一部改正について ・浪江町奨学資金に係る奨学生の決定について	役場二本松事務所
	22日 (金)	浪江小学校卒業式 卒業生12名 (男6名、女6名)	浪江小学校
		第12回 小・中学校長会議及び第11回学校再開準備会	役場二本松事務所
	23日 (土)	平成24年度浪江町中学校卒業生の集い [参加状況] ・生徒：浪江中66名、浪江東中22名、津島中9名 計97名 ・保護者：浪江中45名、浪江東中8名、津島中9名 計62名 ・来賓 23名 総計182名	浪江中学校体育館
長渕 剛塾「詩画展」招待事業 ・小学生と、その保護者、引率者＝45名参加		表参道ヒルズ (渋谷区)	
28日 (木)	平成24年度教職員離任式 ・異動教員40名 (転出14名、転入26名) ・退職教員9名 (定年退職4名、勸奨退職4名、普通退職1名)	役場二本松事務所	
29日 (金) ～ 31日 (日)	春休み企画招待事業 福島の子供達に鎌倉の緑の中でゆったり過ごしてほしい！ 浪江町の小学生と、その保護者等、49名参加	鎌倉市建長寺	

浪江町教育委員会

〒979-1592

福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田 7-2

TEL 0240-34-2111(代)

FAX 0240-34-0261

【避難先事務所】

〒964-0984

福島県二本松市北トロミ 573 番地

浪江町役場二本松事務所内

浪江町教育委員会

TEL 0243-62-0301

0243-62-0304

FAX 0243-22-4223

E-mail: namie420@town.namie.lg.jp